

## おいでよ！かながわ パート2

連合福島が共催

# スイカ割りや宝探しに大きな歓声！

## ～福島県内の小学生40名が参加～

昨年に引き続き、「福島の子ども保養プロジェクト」として、屋外活動が困難な福島の元気いっぱいの子どもたちに、神奈川の緑と青空の下でおもいっきり夏休みを楽しんでもらおうと、今年も7月29日から31日にかけて「おいでよ！かながわ パート2」が実施され、福島県内から40名の小学生が参加した。

主催者は連合神奈川を母体とした、東日本大震災避難者連帯事業神奈川実行委員会だが、後援・協力者として神奈川県教育委員会や福島の子ども保養プロジェクト。共催者として連合福島を始め東北労金福島県本部や全労済福島県本部など、福島県と神奈川県の双方から多くの団体のサポートがあって、今年もこの行事が開催された。

7月29日の初日は、朝7時30分に福島駅西口に集合して出発式を行い、今泉裕連合福島事務局



出発式で激励の挨拶をする今泉裕連合福島事務局長

局長から「この行事を通して、夏休みの楽しい思い出を沢山作って下さい。」など激励の挨拶を受けて、元気に神奈川に向かって出発した。神奈川に着いてからは、ウォークラリーをしたり、夕食のバーベキューをみんなで作って食べたり、夜の花火などで交流を深め合った。

2日目は磯で海の生き物観察やスイカ割り、海辺での海水浴や宝探しに



おいでよ！かながわパート2の参加者とスタッフの皆さん

子どもたちは弾けるような笑顔で大きな歓声を上げながら、夜はキャンドルファイヤーを囲んでのゲームなど、疲れを忘れて楽しんだ。

最後の3日目は午前中クラフトづくりなどをしてから、お昼に神奈川を出発して夕方全員無事に福島に到着したが、参加者にとっては忘れられない3日間となった。

連合神奈川と連合福島は、来年の夏休み「おいでよ！かながわパート3」の開催をどうするか、来年に向けて検討中である。



海辺で弾ける笑顔を見せる参加者